

みすずかる



冬の高社山



6号銅戈 長さ32.4cm 重さ502.6g。
地層観察中に最初に発見されました。樋(5頁)の部分には斜格子文帯がある。これと非常に似たものが和歌山県の山地(やまち)遺跡で見つっている。

- 中野市 - 柳沢遺跡

柳沢遺跡では、2007年10月に土坑の中から銅戈(どうか)7本と銅鐸(どうたく)1点が見つかりました。

銅戈は、刃を立てた状態で並べてあり、刃先はすべて西側(千曲川)を向いています。銅鐸は銅戈の東側で、鈕(ちゅう:頭の部分)を南西に向けて横に倒れた状態で出土しています。青銅器が穴に納められた時期は弥生時代の中頃(約2000年前)と考えられます。銅戈と銅鐸が並んだ状態で発見されるのは兵庫県桜ヶ丘遺跡ほか数例しかありません。



7本の銅戈と銅鐸
埋納坑へ試掘溝を入れ、銅戈と銅鐸の埋納状況を確認した。発見された直後の青銅器は赤銅色をしていた。

-ベールを脱いだ青銅器埋納坑-



青銅器の埋められた状態

正面にあるのが5号銅戈。その奥には4号から1号銅戈がみえる。その左には銅鐸がある。

青銅器埋納坑は11月28日に長野県立歴史館に搬入されたのち、慎重な発掘作業を進めています。調査にあたり、7本の銅戈には番号をつけました。一番壁側(写真奥)の銅戈を1号、以下写真手前に向かって2から5号です(遺跡で最初に発見された銅戈は6・7号としました)。調査の進行状況については、まず5本の銅戈と1点の銅鐸を露出させ、埋納された方向や土の堆積状況などを記録しました。次に1本ずつ保存状態や埋められ方を観察しながら銅戈の取り上げ作業を行いました。2月末には、すべての青銅器を取り上げました。



横(北側)からみる埋納状況

5号は斜めにずれているが、他の銅戈はほぼ同じ高さで埋められているのがわかる。



真上からの銅鐸出土状況
天井に付く鈕の部分が見える。胴体部分は破壊された可能性もある。



西方向(千曲川側)からみる
4本の銅戈は刃を立てて並んでいるが、完全な平行ではない。刃先の方向には千曲川があり、刃先がまとまるように見える。

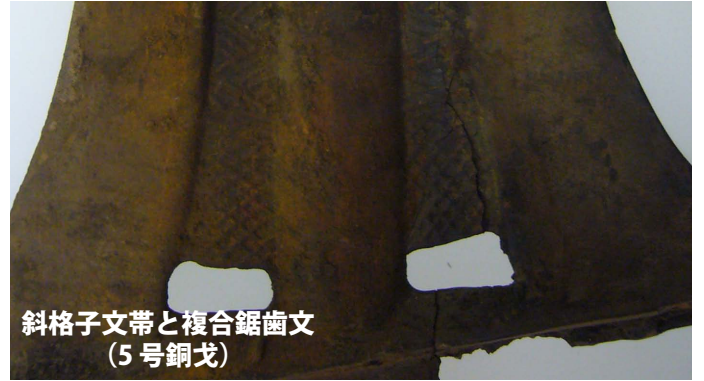


南方向斜め上からみる

埋納された銅戈の長さは、両端の1・7号が長く、間に挟まれた2～5号が短いことが判明した。

取り上げた銅戈の特徴

7本の銅戈は、長さ・幅・形状・文様にバラエティーがありますが、最後に取り上げた1号銅戈以外は大阪湾型です。特徴は樋(ひ)の先端部分が2つに分かれ、斜格子文(しゃこうしもん)・複合鋸歯文(ふくごうきよしもん)があることです。



4号銅戈 長さ 22.2cm 重さ 241.0g
7本並んだ銅戈の中で中央に位置し、最も短い。鋒が丸みを帯びるのが特徴で、文様は確認されていない。

3号銅戈 長さ 25.2cm 重さ 256.0g
4号銅戈に似ているが、4号より3 cm 長く、鋒も鋭い。樋の中にかすかに斜格子文帯と複合鋸歯文がみられる。

2号銅戈 長さ 23.5cm 重さ 295.7g
胡と内の一部が欠損している。樋の中にかすかに斜格子文がある。鑄造（ちゅうぞう）時に銅が十分回らなかったようで、樋の中に空洞がある。



1号銅戈、長さ34.4cm

樋の先端が二つになる北部九州を中心に分布する中細形である。樋の部分に綾杉文（あやすぎもん）がある。内の部分にも文様が見える。九州型（1号銅戈）と大阪湾型（2～7号）が同じ土坑の中に埋納された事例は、全国初めてである。

銅戈計測数値一覧

	全長 (cm)	樋長(cm)				胡長 (cm)	内長 (cm)	内幅 (cm)	重量 (g)	厚さ (cm)	型式	文様
		a面		b面								
		左	右	左	右							
1号銅戈	34.4	16.2		16.3		(11.5)	2.2	2.5			九州型銅戈	樋:綾杉文、内:文様あり
2号銅戈	23.5	13.1	13.2	12.9	13.0	(8.5)	0.8	1.9	295.7	1.27	大阪湾型銅戈	樋:斜格子文帯
3号銅戈	25.2	11.6	11.6	12.2	12.7	10.6	1.3	2.1	256.0	1.05	大阪湾型銅戈	樋:斜格子文帯+複合鋸歯文
4号銅戈	22.2	12.0	11.8	12.1	12.3	11.1	1.1	2.0	241.0	1.13	大阪湾型銅戈	無文
5号銅戈	27.4	13.5	13.5	13.7	13.6	10.8	1.9	2.5	331.5	1.30	大阪湾型銅戈	樋:斜格子文帯+複合鋸歯文
6号銅戈	32.4	14.7	13.9	14.2	14.6	12.2	1.4	3.0	502.6	1.38	大阪湾型銅戈	樋:斜格子文帯
7号銅戈	36.1	14.9	14.8	14.7	14.9	16.8	1.4	3.1	713.5	1.38	大阪湾型銅戈	樋:斜格子文帯

銅戈・銅鐸の源流を求めて

銅戈・銅鐸の起源と展開

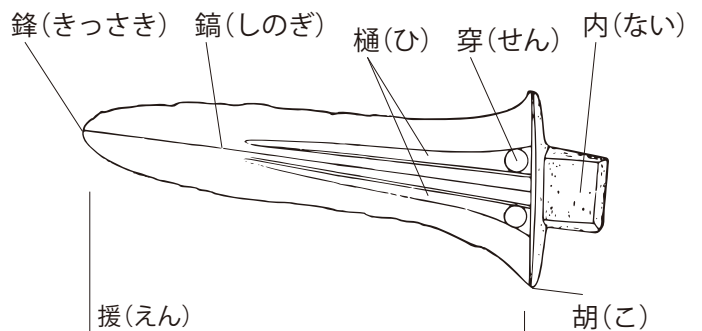
「戈」とは、長い柄に付けて使う武器です。「銅戈」は中国の青銅器時代初期（今から約4500年前）に出現し、その後朝鮮半島さらには北部九州へ広がりました。伝播した銅戈は、それぞれの地域で独自の変化を遂げました。日本列島では、九州に伝わったのちに「祭器」（さいき）へと変化し、中四国地方や近畿地方、そして長野県へ広がっていったようです。

「鐸」とは内部に筒や棒状の柄（舌：ぜつ）がついた鐘のことです。朝鮮半島の小銅鐸をモデルにしたという説があります。近畿地方を中心に分布し、当初は「聞く銅鐸」でしたが、やがて大型化し「みる銅鐸」になるとされます。

銅戈の西と東

中国式銅戈と比べ、朝鮮式銅戈の胡（こ）は短く援（えん：銅戈の身の部分）が細いことが特徴です。中国の長城以南にはこうした銅戈はみつかりませんでした。1996年、河北省の燕（えん）の下都（かど）から朝鮮式銅戈の出土が報告され「細型（ほそがた）」銅戈が西へも分布することがわかってきました。朝鮮式銅戈に起源をもつ日本の銅戈も「細型」銅戈の仲間です。

銅戈の部位名称



埋められた青銅器

朝鮮半島から伝わった弥生時代の青銅器は、最初は墓に副葬されることもありましたが、後にほとんどはムラのはずれなどに埋納されるようになります。銅剣や銅戈などの武器形青銅器も、多くは墓以外に埋納されます。銅鐸は埋納例のみで個人のものではなく集団の持ち物と考えられています。地中に埋める意味については、配布に備えての集積説・隠匿説・廃棄説・地中での保管説・境界埋納説などがあります。

ドキュメント-青銅器埋納坑の発掘調査-

2007年10月17日の発見以来、青銅器埋納坑の調査を進める中で、指導委員会の立ち上げ、現地説明会、遺跡からの搬出など、たくさんの出来事がありました。以下主だったものを紹介します。



11月23・24日：現地説明会



11月28日：歴史館への搬入



11月24日：埋納坑の下にパイプを入れる



12月20日：写真撮影風景



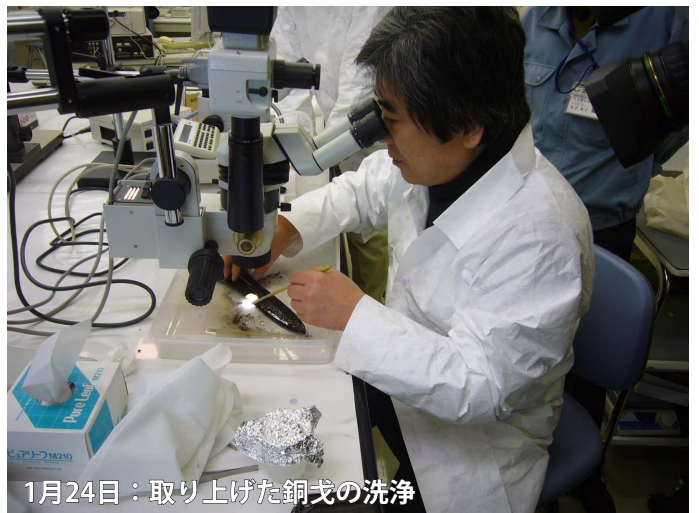
11月26日：搬送準備



1月20日：慎重に進められる発掘



11月28日：遺跡からの切り離し



1月24日：取り上げた銅戈の洗浄

柳沢遺跡の概要

柳沢遺跡は高社山（こうしゃさん）山麓の西向き斜面に立地する広大な遺跡です（写真上左）。明治時代から遺跡として知られ、縄文時代中期の土器や石器、弥生時代中・後期の土器、太形蛤刃（ふとがたはまぐりば）石斧、扁平片刃（へんぺいかたば）石斧、管玉（くだたま）、勾玉（まがたま）などの遺物が採集されています。

今回の発掘は千曲川と夜間瀬川（よませがわ）の合流地点付近に、堤防建設が計画されたため、平成18年度から始まりました。調査範囲は遺跡の西端にあたります。調査区の南半分（写真上右）は崖が低湿地に移り変わる地点で、弥生時代中期から後期の水田と水路の跡がみつかりました（写真中右）。この北側の微高地に、弥生時代中期の青銅器埋納坑と礫床木棺墓（れきしょうもっかんぼ）群があります（写真中左）。北半分は高社山中腹から流れ出る川が形成した扇状地の末端にあたり、今年度調査地点では縄文時代中期の敷石住居跡（しきいしじゅうきよあと）2軒と、縄文時代の遺物が多量にみつかり、この地点付近に集落があったことがわかりました。弥生時代後期の土器棺墓もみつかり、弥生時代には調査範囲全体から現在の柳沢集落にかけて生活域が広がっていた可能性があります。



柳沢遺跡と高社山



西からみた青銅器出土地点



礫床木棺墓群



弥生時代水田跡

栗林遺跡と栗林式土器

柳沢遺跡から7kmほど千曲川をさかのぼると、県史跡中野市栗林遺跡があります。遺跡は河岸段丘上にあり、県内の弥生時代中期後半を代表する集落跡です。過去には、弥生時代の竪穴住居跡（たてあなじゅうきよあと）や掘立柱建物跡（ほったてばしらたてものあと）、礫床木棺墓などが調査され、石戈（せっか）の破片も出土しました。水田跡などの生産域はみつかりませんが、近隣の中野市七瀬遺跡では弥生時代中期の木製農具で膝柄装着鍬（ひざえそうちやくわ）が出土し、この時期に水田耕作をしたことがわかりました。

栗林式土器は、栗林遺跡出土品から名付けられました。弥生時代でも地域色が鮮明になる中期後半から千曲川流域に流行した土器です。土器の形には、頸（くび）の細長い壺、頸から口が短く屈曲する甕（かめ）、足のついた台付甕、高坏（たかつき）、鉢などがあります。高坏と鉢は小型で赤く塗られたものが多くみられます。その文様は、縄文、ヘラ描き沈線文、クシ描き文、などを組み合わせて描かれていて多彩です。

県外では、日本海側となる新潟県、石川県、富山県、東は群馬県、埼玉県を通り太平洋岸となる東京都、神奈川県でも、その地域の土器に混じってみつかりました。



長野市松原遺跡の栗林式土器（県立歴史館蔵）

長野県埋蔵文化財センター速報展

『長野県の遺跡発掘 2008』

期間：2008年3月15日(土)から5月11日(日)

場所：長野県立歴史館(千曲市)

長野県埋蔵文化財センターでは、2007年度も県内各地で発掘調査を行いました。その調査成果をいち早くご覧いただくため、今年も速報展を開催いたします。

遺跡報告会

調査報告 1 佐久市西近津遺跡群

調査報告 2 中野市宮沖遺跡

調査報告 3 坂城町上五明条里水田址

調査報告 4 中野市柳沢遺跡

日 時：4月12日(土)

時 間：13時から

場 所：長野県立歴史館講堂

参加費：無料

最新の遺跡発掘成果を担当者が、いち早くお話しします。

体験広場

期間：5月3日(土)から6日(火)の4日間

時間：10時から15時まで

場所：展示会場前にて

スライドショー、クイズ

速報展期間中随時開催しております。

-埋文ニュース-



2月5日(火)～15日(金)に長野県庁1階ロビーで、2月18日(月)～26日(火)にしなの鉄道屋代駅千曲市民ギャラリーでそれぞれ展示会が開催され、多くの方にご覧いただきました。「歴史館で銅戈の実物がみられるのを楽しみにしています。」などの声が寄せられています。(写真は千曲市民ギャラリー)

速報展のみどころ

◎大発見！弥生時代の銅戈(どうか)・銅鐸(どうたく)

今回の大きなみどころは、中野市柳沢遺跡で一緒に埋められていた弥生時代の銅戈と銅鐸です。これらは、これまでの日本における銅戈・銅鐸の分布図を塗りかえるだけでなく、弥生時代に始まったとされる「クニ」の成立にも関わる日本歴史上の大発見でもあります。

青銅器など金属器類は、大変デリケートなもので、今後保存にむけた処理などを行う必要があります、その作業に入るとしばらくは公開できなくなります。

今回の速報展は、その保存処理に入る前の実物が見られるまたとない機会です。二千年の眠りからめざました先人の残した貴重な遺物を、ぜひご覧ください。

◎奈良から平安時代の文字資料

中部横断自動車道建設に伴い、佐久地方では大規模な発掘調査が行われています。佐久市西近津遺跡群からは、県内で7例目となった平安時代の銅印や、古代の行政区画をあらわす「郡」や佐久地方の地名の一つ「大井」という文字が刻まれた土器、墨で文字が書かれた土器、硯など、文字と関連した多くの遺物が出土しました。速報展では、センター出土品とともに、県内各地で出土した銅印などもあわせて展示いたします。文字が広く使われ始めた当時の生活を、その文字を書いた古代の人々とともに想像してみてください。

☆催し物も盛りだくさん！

今年も土器の立体パズルや、土器の文様を粘土に描いたりする「体験広場」、発掘調査の最前線を実感できる「スライドショー」、さらには展示を見ながら問題をとく「クイズ」を用意しています。出土品を見るだけでなく、触って、聞いて、感じて、考えながら速報展を楽しんでください。

野帳

柳沢遺跡の現地説明会で「ここは、昔、倭(やまと)村で、隣は科野(しなの)村だった。銅戈と村の名前になにか関係があるのか。」と質問されました。調べてみると、いずれも明治時代の村名で、江戸時代にはない地名のようです。しかし、目が開かれた思いがしました。「みすずかる」をお読みになってお気づきになられたことがありましたら、どんなことでもよいですから、ぜひお知らせください。

財団法人 長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
E-mail rai bun@grn.jani s. or. j p
HP <http://www.grn.jani s. or. j p/~rai bun/>